

個人所属グラザー・ディルクス式DG-400型（動力滑空機、単座）  
JA2316の航空事故調査について  
（経過報告）

令和8年3月26日  
運輸安全委員会（航空部会）

運輸安全委員会は、令和7年4月12日、北海道北見市北見地区農道離着陸場（スカイポートきたみ）において、個人所属グラザー・ディルクス式DG-400型（動力滑空機、単座）JA2316が着陸時に機体を損傷した航空事故について、令和7年4月から原因を究明するための調査を進めてきたところであるが、これまでの調査で得られた情報を基に、更に分析を進めるとともに、原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。このため、本調査については、本航空事故が発生した日から1年以内に調査を終えることが困難であると見込まれる状況にあることから、運輸安全委員会設置法第25条第4項の規定に基づき、以下のとおり本調査の経過を報告する。

なお、本経過報告の内容については、今後、新たな情報の入手等により、修正されることがあり得る。

また、本調査は、本航空事故に関し、運輸安全委員会設置法及び国際民間航空条約第13附属書に従い、航空事故及び事故に伴い発生した被害の原因を究明し、事故等の防止及び被害の軽減に寄与することを目的として行うものであり、本事故の責任を問うために行うものではない。

## 1. 航空事故の概要

個人所属グラザー・ディルクス式DG-400型JA2316は、令和7年4月12日（土）、耐空証明検査の飛行試験のため、機長のみが搭乗し、北海道北見市内の北見地区農道離着陸場を離陸し、17時01分頃、同離着陸場に着陸する際、滑走路手前ののり面に衝突して大破し、機長が重傷を負った。



図1 事故機

## 2. 調査の概要

運輸安全委員会は、令和7年4月13日、事故発生の通報を受け、本航空事故の調査を担当する主管調査官ほか1名の航空事故調査官を指名した。現時点までに関係者からの口述聴取、飛行の解析、航空機的设计・製造者からの情報収集等を実施した。

## 3. 判明している事実情報

### （1）飛行の経過

同機は、耐空証明検査の飛行試験のため、機長のみが搭乗し、16時47分に北見地区農道離着陸場を離陸した。

同機が着陸のため場周飛行に入った際にエンジン格納部の扉が少し開いているのを関係者が目撃した（図2）。機長は高度が低いと感じたのでダウンウインドに入る際に滑

走路から離れないように右へ旋回し、その後ファイナルに入るため左へ旋回し滑走路に着陸しようとした。しかし、この旋回でオーバーシュートしたためバンクを深くして修正しようとした際に機体が沈んだ。同機は機首下側を滑走路進入端手前の鉄製フェンスにこすって跳ね上がり、機首がのり面に衝突して左に回転して停止した。機長は進入するに当たり着陸装置は下げたが、フラップ、ダイブブレーキについては操作することはなかった。同機のGPSの記録によると右旋回を開始した時点で対地高度400ft、左旋回を開始した時点で200ftであった。



図2 エンジン格納部の扉

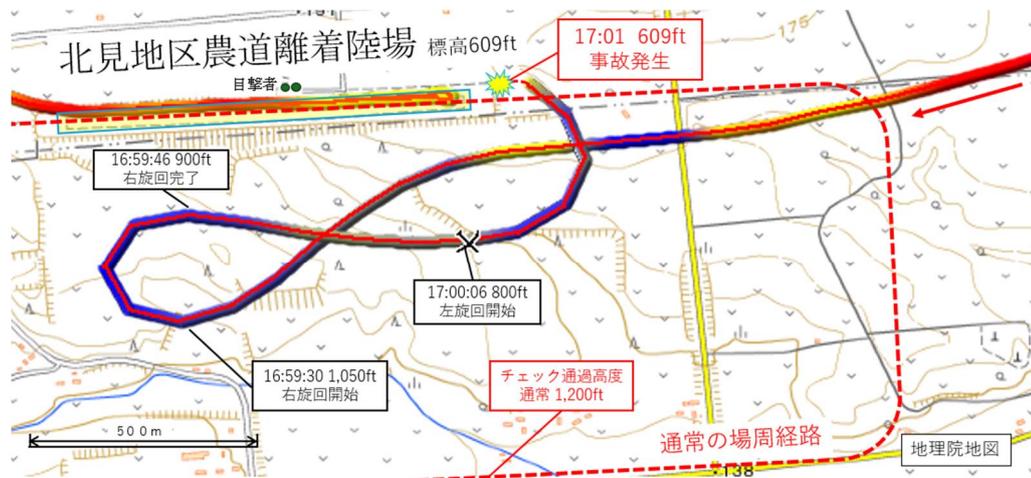


図3 推定飛行経路

- (2) 負傷者  
機長1名 重傷
- (3) 航空機の損壊  
大破



図4 損傷状態

#### 4. 今後の調査

本航空事故の原因及び本航空事故に伴い発生した被害の原因の究明並びに事故等の再発防止策の検討のため、これまでの調査で得られた情報を基に、同機の高度が低下し衝突に至った原因について、更なる分析のほか、原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。

当委員会は、これまでの調査、分析等によって得られた結果を踏まえて、引き続き本航空事故の原因等の調査を進める。